

私は高校まで旭川で過ごした後、パソコンに興味があったため情報系の大学に進学しました。そのため、学生の頃は自分が土木業界の仕事に就くとは全く想像していませんでしたが、地元の旭川に戻りたいという思いや、土木業界でも既にパソコン(MS-DOS)が使用されていたことなどから、現在の会社に入社しました。

元々土木業界を志していたわけではない私ですが、自分が設計した道路や河川の完成した姿を目の当たりにすると、そのスケールの大きさに感動し、次第に充実感を覚えるようになりました。そのため、早く一人前になりたい、自分の名前で仕事がしたいと思うようになり、その頃から資格の必要性を感じてはいましたが、技術士は自分には手の届かない資格だと思い、既に第一次試験に合格してはいたものの、第二次試験は受験していませんでした。

それでも、2007年(平成19年)になると、社内で技術士受験への機運が高まり、私も渋々受験することになりました。その年は案の定不合格でしたが、可否の通知を見ると意外にもあと一歩という結果だったため、全く手の届かない資格ではないと感じ、翌年の2008年(平成20年)に再度挑戦し、何とか合格することができました。また、翌年の2009年(平成21年)には総合技術監理部門にもチャレンジし、こちらも無事合格することができました。

そんな私もこの業界に入って今年で30年目になります。この執筆を機にこの30年を振り返ってみると、社会全体や携わる業務が大きく変化してきたことを改めて実感しています。これからも時代の変化は加速していくと思いますので、時代の変化に敏感でそれに適応できる社会人でありたいと思います。

長谷川 敦規(はせがわ あつのり)

- 建設部門(道路)
- 総合技術監理部門(建設)

勤務先

株式会社フジ土木設計



→次号は、石田十羽完さん(建設部門)

私は札幌出身で、2006年に北見工業大学を卒業、入社して今年でちょうど20年目となりました。この20年を振り返ると、入社後13年は土木部として道内各地および東北で高速道路の土工現場や遊水池の排水門、トンネルなどで施工管理をしていました。その後現在までは、技術部としてトンネル現場を中心にトンネルのFEM解析・骨組構造解析やコンクリートの調査など現場支援業務、最近ではAIを使ったコンクリートに対する画像解析の適用性の検証も行っています。

技術士の取得については、現場で施工管理をしていた時はいつか技術士を取れたらと考えていました。しかし、今から7年前に土木部から技術部へ部署移動となり、業務内容も施工管理から技術的な側面での現場支援に変わったこともあり、技術士をとらなければならない環境に変わりました。その後、取得には数年かかりましたが、技術士を取得しました。技術士を取得してから変化したことは、発注者などに技術的発言があるため、そのような場面での信頼性が向上、技術者としてのステータスの向上したことです。さらには青年技術士交流委員会に参加することで、技術士同士の新たな仲間との出会いや交流に伴いたくさんの良い刺激を受け、技術者そして一人の人間として大きく変化・成長しています。

これからの目標として、今年度から青年技術士交流委員会の副委員長に就任したので、積極的に活動しいろんな方と交流することで、技術者としてさらなるステップアップができればと思っています。また、技術士として後進の技術者育成をしていくとともに、自己の継続研鑽を続け、総合技術監理部門の取得もしたいと思います。

中村 和隆(なかむら かずたか)

- 建設部門(トンネル)

勤務先

岩田地崎建設株式会社



→次号は、西山貴久さん(機械部門)